

H26.4.19

## 肝臓がんと脾臓がん



長尾和宏（ながお・かずひろ） 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで“人を診る”総合診療を目指す。医学博士。近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学、東京医科大学客員教授。55歳。

胃がん、大腸がん、肺がん、前立腺がん、乳がん、子宮がんなどはそれぞれがん検診があるので、肝臓がんや腎臓がんについてはがん検診がありません。なぜでしょうか。

肝炎ウイルスがんの多発地帯です。その理由は、C型肝炎やB型肝炎の患者が多いからです。肝臓がんの大半は、C型肝炎やB型肝炎の人に発生します。よほどお酒を飲んでアルコール性肝硬変となったり、悪性の脂肪肝（NASH）にならない限り、肝臓がんはできません。肝臓がんは、なりそ

# 肝炎ウイルス検診と腹部エコーを！

炎ウイルス保有者の「捨て上げ」と、最新治療への公的支援です。現在、C型肝炎には「3者併用療法」という新しい治療法がとられ、8割以上の方が完治しています。一方、B型肝炎は「核酸アナログ」という飲み薬でウイルスを封じ込める事ができます。20年前に私が開業した当時と比べると、まさに隔世の感がします。

や背部痛で見つかったときは、すでにかなり進行していることが多いです。「国民病」ともいわれる糖尿病は、脾臓から出るインスリンの量が少なくなったり、その効きが悪くなつて血糖値を下げる事ができなくなつて起ります。血糖値ばかりにとらわれて気づけば末期の脾臓がんだった、ということにならないよう、機会があればぜひ腹部エコー検査を受けてください。

ではあります。安全でとても有益な検査です。脾臓がんの検診はないので、機会があれば腹部エコーを受けるしかありません。私自身も年に1回はエコーでおなかを診てもらっています。10分もあれば検査できます。肝臓がん対策は肝炎ウイルス検診が重要で、脾臓がんを早期発見するためには、なににはともあれ腹部エコーです。

各自治体や“かかりつけ医”を通じて「肝炎ウイルス検診」が広く行われています。ウイルス性肝炎の多くは無症状ですので、血液検査をしない限りは判明しません。平成22年から肝炎対策基本法が施行され、現在は行政も医療機関も肝炎対策に非常に力を入れています。

は、こうした肝炎検診事業や3者併用療法に充てられていています。機会があればぜひとも肝炎ウイルス検診を受けて、もし陽性なら、かかりつけ医を通して各自治体の肝炎拠点病院を受診してください。

さて、もうひとつ増加しているのが腎臓がんです。黄疸

い。たとえば、腹痛で医療機関を受診したときなどに受けしてください。

検査で脾管の拡張や多発性のう胞などを指摘されたことをきっかけに、手遅れにならない段階で脾臓がんが見つかり完治したケースを何人か見てきました。

う人（ハイリスクグループ）がはつきりしています。従つて、発見のためには、C型肝炎とB型肝炎の人に的を絞つてがんの有無を調べることになります。

**肝炎対策基本法** 肝炎を国内最大の感染症として認識し、肝炎対策の基本指針・基本的施策などについて定めた法律。居住地域にかかわらず適切な肝炎検査・治療が受けられることを目指すなど、肝炎対策の基本理念が示されている。平成22年施行。

# Dr. 和の 町医者日記

「健診」シリーズ⑦

肝炎対策基本法